記事内容は執筆者個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。

ほりジイ スクールソーシャルワーカーだより 21.1

こと　ほりかわしげとし
horikawassw@gmail.com

☆ そうじ の巻 ☆≡

凡事徹底あるいは大事の前の小事。

Ａたり前の事を、Ba かみたいに、Chya んとやる ＝ 仕事のＡＢＣ

本号は、子ども達が学校に居ない夏休み中の配信と言う事で、前 21 号のスピンオフ、21.1 号として、子ども支援者の皆様に向けて書かせていただきました。（ここから先はフィクションかも知れません）

☆

当ＳＳＷ、教歴 16 年において三つの学校を経験したが、どの学校も帰りのＳＨＲ前に一斉掃除を行なっていた。

チャイムでくくられたその時間帯を、下校あるいは部活前の骨休めと勘違いする高校生が、なんと多かった事か！

毎年、掃除をＨＲづくりの根幹としていただけに、いかにしてサボりを防ぐかは関ケ原の戦い。この戦いに敗れた担任は以後、クラス統一の旗頭にはなれない。それぞれの学校での初戦が最も重要と心得ていた。

★

班活動中心の学級経営ゆえに、掃除は毎年、担当区域を班別ローテーションする戦略を採り、担任は教室掃除、副担任を生徒が最もサボり易い区域に配置した。

教室掃除は工程が複雑で、その掃除状況から組員の資質が偵察できる。小生は教壇（半世紀以上前、黒板前にあった 20 センチほどの壇）と黒板雑巾がけを担当。早く終わり、担当区域の巡回歩哨に出る作戦だ。

大体において、高総体前の五月下旬にはメッキがはがれ、掃除をサボりが常態化する。そこまでは、この潮時を待つ。そして、「担当区域は学校からの役割分担。組員一丸で取組む。にもかかわらずサボる者が居る。不公平は許さない！」と命じる。

そんな事ではサボりは無くならない。そこで次の大号令、「全員、掃除時間は教室で待機。担任が役割を果たして来る！」となる。

担任はまず教室廊下から掃除を始める。たいがいは部活女子が手伝いに来るが、敢えて拒否。「全員がしたいならそうじを譲る」と、クラス内での話し合いを促す。

手伝いに来た女子のほとんどがリーダー的で、教室で男子に怒りをぶつけ、サボらせない約束を取り付けて駆け戻って来る。

毎回、うまく行く訳ではない。次の作戦は丁寧に、時間をかけた掃除を終え、恨めしそうな顔を眺めながらＳＨＲで、「数人が手伝うと言って来た。それは不公平を容認する事に他ならない。大間違い！皆でやるか、皆やらないか、だ！」と全体指導。結果、この日の部活に全員、かなり遅れて参加する。

☆★

小生も部活顧問。各部の顧問から「大会前の仕上げに悪影響を及ぼす、遅刻させないで」言われると覚悟している。

毎号、全教職員に配布する学級新聞に、翌朝一番「民主化運動」としての「そうじ戦争勃発」のニュースを載せ、これを先制。表向き、避難は抑えられる。

逆に、早期終戦に向け、顧問の連合軍加盟、すなわち組員への強力な指導を依頼する。

★☆

この戦いは、それぞれの学校で担任したクラス、二つくらいまではありましたが、それ以降はほとんど無く、こうして常勝将軍の名声を勝ち取ったのでした。（了）